

# Nationwide Survey of the Prevalence of Wheeze, Rhino-Conjunctivitis, and Eczema Among Japanese Children in 2015

出典	Allegology International 2020;69(1):98-103 ( <a href="https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/31548125/">https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/31548125/</a> )
著者	Morikawa E et al.
調査地域	日本全国
調査時期	2015年7月
調査対象	小学1-2年生(6-8歳)と中学1-2年生(13-15歳)
依頼数	小学校635校、中学校293校
有効回答数 または回収率	小学校98.4%(625/635校 50,392名)、中学校94.2%(276/293校 51,442名)
診断方法	ISAAC質問票(小学生は保護者が、中学生は自身で回答)
有症率	6-8歳は18.7%(95%CI:18.3-19.1) 13-15歳は26.7%(95%CI:26.2-27.2)
調査概要	全国の小中学生のアレルギー疾患有症率を調査した論文。6-8歳では男児が多く(男:女=19.9%:17.5% p<0.001)、13-15歳では女児が多かった(男:女=25.2%:28.2% p<0.001)